

自己点検・評価報告書

点検対象月 2025年4月～2026年3月
報告書作成月 2026年6月

ミッドリーム日本語学校

1. 教育理念・目的等

- 1-1 教育理念と教育目的が明確に定められているか
- 1-2 教育理念と教育目的が教職員及び生徒に周知されているか
- 1-3 教育理念と教育目的に基づく教育が行われているか

2. 学校運営

- 2-1 認定日本語教育機関の認定基準に適合しているか
- 2-2 短期及び中長期的な運営方針が教職員に周知されているか
- 2-3 運営組織や意思決定機能が確立され、効率的なものになっているか
- 2-4 予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確であるか
- 2-5 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか
- 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
- 2-7 危機管理体制が整備されているか
- 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できているか

3. 教職員

- 3-1 校長、主任教員、及びその他の役職の職務内容、責任、権限を明確に定めているか
- 3-2 教育目標達成に必要な教職員の知識、能力及び資質を明確化しているか
- 3-3 教育の質・向上のための研修が体系的に実施されているか
- 3-4 教育目標達成に必要な教職員を確保できているか
- 3-5 教職員の評価を適切に行っているか

4. 教育活動

- 4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか
- 4-2 教育内容及び教育方法について、教員間で共通理解が得られているか
- 4-3 授業記録及び出席状況について、正確に記録されているか
- 4-4 授業を評価し、改善するための体制が整っているか
- 4-5 生徒の理解度の確認を適切に行うことで、補講などの適切な措置が取られているか
- 4-6 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制が整っているか

5. 成績評価と修了判定

- 5-1 修了及び成績の判定方法が明確に定められているか
- 5-2 修了及び成績の判定方法が、教職員と生徒に明確に伝えられているか

- 5-3 評価体制、評価基準及び評価方法が適切であるか
- 5-4 入学から修了までの学習成績の記録が適正に管理されているか

6. 生徒支援

- 6-1 進学・就職指導に関する体制が整備され、有効に機能しているか
- 6-2 生徒相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか
- 6-3 生徒の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか
- 6-4 住まいの紹介等の生活環境への支援が行われているか
- 6-5 保護者及び生徒紹介機関との連携が適切になされているか
- 6-6 母語または十分に意思疎通ができる言語によるサポートがなされているか

7. 在籍管理と生活指導

- 7-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか
- 7-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか
- 7-3 日本国の法令を遵守させる指導が行われているか
- 7-4 東京出入国在留管理局により認められた申請等取次者が配置されているか
- 7-5 在留上問題がある生徒に対して、個別指導等の適切な指導が行われているか
- 7-6 不法残留者や犯罪関与者等を発生させないための指導体制が構築されているか
- 7-7 東京出入国在留管理局から認定校である旨の通知を受けているか

8. 生徒の募集と受け入れ

- 8-1 年間募集計画を策定し、計画的な生徒募集ができているか
- 8-2 入学希望者に対して、教育課程の内容等についての情報提供が適切に行われているか
- 8-3 適正かつ公平な基準に基づき入学選考が行われているか
- 8-4 適正な定員設定及び在籍者数になっているか
- 8-5 コース選択が、生徒の日本語能力とニーズに合致しているか確認されているか
- 8-6 入学金や授業料、その他全ての納付金の金額、及び納付期限が明確に示されているか

9. 財務

- 9-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 9-2 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか
- 9-3 財務について会計監査が適正に行われているか
- 9-4 生徒紹介機関に支払う手数料は相場を鑑みた適正なものとなっているか

10. 法令などの遵守

- 10-1 法令、認定基準等の遵守と適切な運営がなされているか

- 10-2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか
- 10-3 教職員のコンプライアンス意識を高めるための方策が取られているか

11. 地域・社会貢献

- 11-1 地域との共生・共存のために、安全、環境等の維持、整備が行われているか
- 11-2 地域及び社会の状況や特性を理解できるよう、生徒に周知が行われているか
- 11-3 地域住民や関係機関等に留学生への理解が得られるよう働きかけが行われているか
- 11-4 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

1. 教育理念・目的等

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
1-1	教育理念と教育目的が明確に定められているか	5
1-2	教育理念と教育目的が教職員及び生徒に周知されているか	4
1-3	教育理念と教育目的に基づく教育が行われているか	4

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

「日本社会に適合し、活躍できる人材を育成する」ことをミッションとし、教育目標を「自立・自主・自助」を掲げている。この教育目標を達成することで、学習をはじめとする様々な物事に主体的に取り組むことができるようになり、それが日本社会を生き抜いていく力になると信じ、日々教育に励んでいる。

そして、修了生に日本社会で活躍してもらうために、大学院・大学で学位を取ることが大切だと考え、認定日本語教育機関になるにあたり、教育課程を「大学院進学コース」と「大学進学コース」の2コースに整理し直した。このように「希望進路別に特化したカリキュラム」を用意し、生徒のニーズにあった教育をしていることが当校の特色の一つである。

もう一つの特色としては、2017年から継続して行っているICT教育がある。全教室に電子黒板を設置し、全校生徒が使用できるようタブレット端末を配置することで、その体制を整えている。文部科学省によるGIGAスクール構想により、ICT教育を受けてきた日本の若者と当校の修了生が高等教育機関において共に学習することを見据えて、力を入れている内容である。

理念に基づいた教育については、「自立・自主・自助」というキーワードは教職員と生徒に共有されているが、この目標に対する理解度については差があり、学校全体として十分に共有・指導できているとは言えないため、「4」とした。まずは、教職員が率先して「自立・自主・自助」を体現し、生徒に教育していくことができるよう努めていきたい。

2. 学校運営

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
2-1	認定日本語教育機関の認定基準に適合しているか	5
2-2	短期及び中長期的な運営方針が教職員に周知されているか	4
2-3	運営組織や意思決定機能が確立され、効率的なものになっているか	5
2-4	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	5
2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5
2-6	危機管理体制が整備されているか	5
2-7	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

2025年3月31日に文部科学省より認定日本語教育機関としての開校が認められ、認定基準への適合が客観的にも認められた形となった。今後は自己点検と第三者評価の体制をより強固なものとし、学校運営と教育の質向上を目指したい。

役職と役割を明確に定め、それに従った組織運営を行うことができている。部署ごとの会議を定期的に行い、計画的な運営が行えている。昨年度まで課題に挙げていた部署間の連携と意識共有については、部署長が集まる定例会議などの実施などの工夫をすることで、以前より密な連携が図れるようになった。

また、情報管理システムについては、2025年度から新たに「WSDB」と「LearningBox」というアプリを導入し、情報管理と共有が十分にできるようになっている。情報が一か所に集められ、かつ検索性と一覧性に優れているため、効果的に情報が共有され、生徒指導にも大きく役立っている。

短期及び中長期的な運営方針については、策定されているものの、全教職員が十分に理解しているとは言えないため、「4」とした。この周知を徹底するために、2026年からは年2回、全常勤職員を招集しての定例会議を行うこととした。今後も部署ごとの定例会議などの場を使い、意識共有をより強く図っていきたい。

3. 教職員

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
3-1	校長、主任教員、及びその他の役職の職務内容、責任、権限を明確に定めているか	5
3-2	教育目標達成に必要な教職員の知識、能力及び資質を明確化しているか	5
3-3	教育の質・向上のための研修が体系的に実施されているか	4
3-4	教育目標達成に必要な教職員を確保できているか	4
3-5	教職員の評価を適切に行っているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

校長、主任教員、事務長、学生募集統括、などの役職を設定し、その職務内容、責任、権限を明確に定めることで、体系的な組織運営が行えている。また、2026年度から、本館、2号館にそれぞれ副主任と副事務長を1名ずつ配置し、さらに体系的な体制を敷くことができている。

教員の評価については、非常勤教員にはその評価表を開示し、3ヶ月ごとにその評価を示している。専任教員については、昨年度から「等級基準書」を作成し、評価項目を開示しての研修、指導、面談を行うようになり、より体系的な評価体制となった。

教育の質の向上についての取り組みとしては、主に、定期的を開催する教員研修や勉強会と、専任教員による授業見学を実施している。教員研修、勉強会については、業務上必須のものから、教員の知識・技能・態度を高めるためのブラッシュアップ研修まで幅広く行っている。一方で、研修後の知識や技術の会得状況や成長の軌跡を研修の実施者も受講者も追えていない状況であり、教育の質向上についての可視化が課題であると考え、「4」と評価した。

授業見学については、授業後にフィードバックを行い、個々の授業レベルに応じた指導・アドバイスを行っている。この授業見学は複数の専任教員が共に行うようにしており、評価と指導内容の均一化を図っている。また、評価・指導のための授業見学だけではなく、教員同士の学び合いのための授業見学も推奨しており、相互研鑽の場を提供するよう努めている。

4. 教育活動

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
4-1	カリキュラムは体系的に編成されているか	5
4-2	教育内容及び教育方法について、教員間で共通理解が得られているか	5
4-3	授業記録及び出席状況について、正確に記録されているか	5
4-4	授業を評価し、改善するための体制が整っているか	4
4-5	生徒の理解度の確認を適切に行うことで、補講などの適切な措置が取られているか	5
4-6	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制が整っているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

カリキュラムは学習課程の目的および、到達目標に合わせて体系的に整えている。当校は、「大学院進学コース」と「大学進学コース」を設置しているが、日常生活や基本的なコミュニケーションを学ぶ段階の A1～B1 の学習は両コースとも同じ内容となっており、アカデミックな内容や表現が増える B2 の学習からは、それぞれのコースに合った学習内容を用意している。

授業評価は、専任教員および主任教員、校長による授業見学を定期的実施することで、評価と今後の課題の確認を行う体制を敷いている。しかし、中長期的な人材育成の視点が不足していて、計画的な授業力向上のためにはまだ課題が残るため、「4」と評価した。

日本語能力試験、日本留学試験の対策に関しては、2025年度からは科目化し、より体系的な指導を行うようになった。特に、解法技術の取得にも力を入れており、単に言語知識をつけたり、読解・聴解力の向上を目指したりするだけでなく、問題を解くための背景知識の強化や、設問意図を読み取る力の向上、予測ストラテジーの強化などを図っている。また、両試験の模擬試験を定期的実施することで、実力の確認を行っている。この模擬試験は外部の会場を借り、受験票を発行して行うことにより、本番の試験に近い環境での本格的な練習が行えている。

5. 成績評価と修了判定

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
5-1	修了及び成績の判定方法が明確に定められているか	5
5-2	修了及び成績の判定方法が、教職員と生徒に明確に伝えられているか	5
5-3	評価体制、評価基準及び評価方法が適切であるか	5
5-4	入学から修了までの学習成績の記録が適正に管理されているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

成績評価は科目ごとに試験評価、パフォーマンス評価、自己評価、他者評価、ポートフォリオ評価、課題評価などを用いて、クラス担任が行っている。評価基準については、ルーブリックなどを教員と学習者と共有をし、かつ、クラスごとの評価のすり合わせをする機会を設けている。そのため、クラスによる評価のバラつきはないと言える。また、パフォーマンス評価のような主観評価については、その評価回数を多く取ることと、複数の評価者が関わることで、その評価のムラがなるべく平均化される工夫を取っている。

修了条件については、HPの生徒用ページにおいて公開されている学則に明記しており、十分な周知がされている。また、入学時のオリエンテーション及び日々の生徒指導においても繰り返し周知が行われている。また、修了条件の一つである公的試験の結果については、修了時期3か月前から最後の機会となる試験の案内を十分に行うことを徹底している。

入学から修了までの成績については、当校オリジナルの学生管理システムで、検索性と一覧性が十分に確保された状態で管理されている。

6. 生徒支援

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
6-1	進学・就職指導に関する体制が整備され、有効に機能しているか	5
6-2	生徒相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか	5
6-3	生徒の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	4
6-4	住まいの紹介等の生活環境への支援が行われているか	5
6-5	保護者及び生徒紹介機関との連携が適切になされているか	5
6-6	母語または十分に意思疎通ができる言語によるサポートがなされているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

本校では「大学院進学コース」と「大学進学コース」に課程を分けているため、それぞれの進路に特化した進路指導・進学指導を体系的に行っている。また、進路指導部という進路指導に専念する部署がある。この部署の専門指導員は母語で進路指導を行っており、生徒の日本語能力に関係なく指導できる体制を整えている。

生徒相談についても各国語で対応できる職員を置き、生徒が困った時や将来についていつでも相談できるよう母国語で直接または通訳で行っている。また生徒との連絡手段に SNS を利用しており、いつでも母国語で相談できるような状態にしてある。

住居については、入国前に生徒紹介機関が賃貸住宅を紹介している。また、入国後も学校と生徒紹介機関が連携して住居の紹介や相談に乗れる体制を取っている。

保護者との連携については、入学申請時及び入学時に保護者の連絡先として電話番号・SNS を把握し、問題発生時にすぐ連絡が取れるようにしている。

生徒の心身の健康管理については、定期的な健康診断の実施と病状別の紹介病院を用意している。また、症状が重い生徒については、母国語通訳ができる職員が連れ添って病院に行く体制が取れている。ただ、心の病と事故などについては、予防対応としてまだできることがあると考え、「4」とした。

7. 在籍管理と生活指導

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
7-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
7-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
7-3	日本国の法令を遵守させる指導が行われているか	5
7-4	東京出入国在留管理局により認められた申請等取次者が配置されているか	5
7-5	在留上問題がある生徒に対して、個別指導等の適切な指導が行われているか	5
7-6	不法残留者や犯罪関与者等を発生させないための指導体制が構築されているか	5
7-7	東京出入国在留管理局から認定校である旨の通知を受けているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

入管法をはじめとする法令順守の指導は順調に行えている。結果として、毎年適正校クラス I である旨を東京出入国在留管理局から受け取れている。東京出入国在留管理局が集計する問題学生の割合が4年連続 0.00%であったため、2025年10月にも継続して「適正校 I」である旨の通知を受けている。

学生の情報については、3か月に1度の定期面談と、その他に必要なに応じて行う不定期面談を通して、把握するよう努めている。また、1ヵ月に一度出席不良の学生を割り出し、その学生の近況等をヒアリングして面談記録として残している。

日本社会を理解するための生徒支援については、法令やマナー、文化的な考え方や風習などを伝えることで、ある程度達成ができている。しかし、文化の違いについては外形的な違いを理解するに留まっているところもあり、まだ課題が残ると考え「4」とした。

8. 生徒の募集と受け入れ

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
8-1	年間募集計画を策定し、計画的な生徒募集ができているか	5
8-2	入学希望者に対して、教育課程の内容等についての情報提供が適切に行われているか	5
8-3	適正かつ公平な基準に基づき入学選考が行われているか	5
8-4	適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5
8-5	コース選択が、生徒の日本語能力とニーズに合致しているか確認されているか	5
8-6	入学金や授業料、その他全ての納付金の金額、及び納付期限が明確に示されているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

生徒募集については、前年度に年間募集計画を立て、それに沿った募集活動ができている。生徒募集の基準については、全国籍統一のものを規定する一方で、各国の教育事情などに合わせた基準も別に設けることで、より妥当性の高い選考が行えている。特に、認定日本語教育機関の学習課程を維持するためには、入学前の日本語能力と学習能力の確認が必須であり、昨年度からはより慎重に入学試験を行うようにしている。

生徒募集の方法は、担当者が直接現地で面接をすることとしているが、事情が許さない場合は、オンラインでの面接を行なっている。その際、留学目的、経費支弁能力、勉学意欲の確認に加え、本人の目的に応じたアドバイスも同時に行い、ビジョンを持った状態で日本に来させるよう努めている。

2020年度から2022年度までの3年間は、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延と、政府による外国人の新規入国が規制されたことの影響で、生徒数が大幅に減少したが、2023年度以降はその影響もなくなり、生徒募集も順調に行えており、生徒の定員充足率は毎年95%程度となっている。

9. 財務

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
9-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
9-2	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
9-3	財務について会計監査が適正に行われているか	5
9-4	生徒紹介機関に支払う手数料は相場を鑑みた適正なものとなっているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

綿密な事業計画、及び毎月の予算管理を行うことにより財務基盤は年を追うごとに安定してきている。2020年度から2022年度は新型コロナウイルス感染症による入国規制で、学生が入国できなくなり財政に大きな影響があった。この3年間は単年では赤字、もしくは財政的に厳しい時期であったが、2019年までの安定した財務状況が功を奏し、教職員の整理や減給などを一切せずに入国規制の時期をやり過ごすことができた。

2022年度に入国規制が解除されたことで、新入生を迎え入れることができ、単年赤字を回避することができ、2023年度以降はコロナ禍以前の状態に完全に帰り、安定した経営状態に戻っている。

現在は、毎年黒字を出しており、その余剰金は、教職員への還元、設備・教育投資、内部留保の3つにバランス良く振り分け、今後の安定した学校運営が実現できている。

10. 法令などの遵守

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
10-1	法令、認定基準等の遵守と適切な運営がなされているか	5
10-2	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	5
10-3	教職員のコンプライアンス意識を高めるための方策が取られているか	4

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

認定基準や入管法、その他の法令に沿った学校運営ができている。その一つの結果として毎年、東京出入国在留管理局から適正校クラス1である旨の通知を受け取っていて、これが途切れたことはない。また、昨年度は認定日本語教育機関として認定されるに至った。

個人情報については、電子生徒管理システムで管理をしており、役職や権限により、アクセスできる情報を制限するようにしてある。ホームページやSNSなどに生徒や教職員が映っている写真や映像を使用する際には、個人が特定されない形での利用に留めたり、事前に本人の了承を得て公開したりするなどの対応を取っており、特にトラブルも起こっていない。

また、著作権の遵守にも注意を払っており、カリキュラム上必要な教材は、全て本務等教員が用意するようにしており、教員個人が教材を採用したり、用いたりしない体制を取っている。

教職員のコンプライアンス意識については、概ね高い意識を維持できていて、学校運営に支障がない状態にある。しかし、全ての職員がコンプライアンスに関して、改善と改良の意識を持って業務に望んでいるわけではなく、受動的な側面があることから「4」とした。

11. 地域・社会貢献

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

評価項目		評価
11-1	地域との共生・共存のために、安全、環境等の維持、整備が行われているか	4
11-2	地域及び社会の状況や特性を理解できるよう、生徒に周知が行われているか	4
11-3	地域住民や関係機関等に留学生への理解が得られるよう働きかけが行われているか	4
11-4	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

地域社会との共生・共存については、特に大きな問題や摩擦もなく順調ではあるが、積極的な相互の関わりや交わりがある状態ではないため、「4」とした。地域清掃や新宿区主催の行事にボランティアとして生徒が参加したりといったことはあるが、一時的なものであったり、外形的なものであったりして、より深い共生を実現するにはまだ課題が残る。

学校の教育資源を活用した社会貢献については、様々な活動が行えている。複数校の大学や養成講座から依頼を受け、日本語教育を学んでいる大学生の授業見学や教壇実習を実施し、当校独自の取り組みとしては大学3年生向けのインターンシップを毎年実施している。日本語教育に興味がある学生に日本語教育の現場を体験する場を提供することは、日本語教育業界の発展に寄与するものであると考えている。また、(一財)日本語教育振興協会が文部科学省から委託されて実施している「主任教員研修」には、当校の校長が長年実施委員・講師として関わっており、日本語教育業界全体の人材育成にも一定の貢献できていると考えている。

2025年度については、文部科学省の「認定日本語教育機関活用促進事業」に参加し、その成果として、認定日本語教育機関が安定した収入を得る一つのモデルケースを占めさせた。